

タバコの煙は空気の流れとともに周辺に漂い、白い煙は見えなくなってもニオイはかなり遠くまで届きます。そして、その粒子はとても小さいので部屋や衣服の奥深くまで入り込み、喫煙が日常的に行われているところは、いつもイヤなニオイがします。そんなイヤなニオイを強制的に嗅がされることを”サードハンドスモーク“(残留受動喫煙)と呼ぶことは、前回紹介したとおりです。

でも、じつはタバコの煙の小さな粒子は、ニオイの元になるだけではありません。

左の写真を見てください。天井の色がくっきり濃くなっている部分がありますよね。さらに天井の白い部分と比べると、側面の壁の色もなんとなく汚れているように見えませんか。



北別館の喫煙室があった場所。仕切りがあった部分だけ、天井や壁がヤニで変色している

これは、和歌山県庁北別館に長年設置されていた喫煙室跡の写真です。

そうなんです。タバコの煙は、ニオイだけではなく、周りのものをこんなに汚してしまいます。しかもニオイと同様に、この汚れを除去するのは非常に困難です。

これに似たような部屋は、皆さんの身の回りにも存在していると思います。気の毒なことですが、家庭内で喫煙が繰り返されていると、家の中が茶色になっている可能性もあるでしょう。

「えー、こんなに汚くなるかなあ」って感じる人も居るかもしれませんがね。喫煙によって部屋中すべてが均等に汚れていると、もともとの色と比べられないので気が付かないものです。でも、タバコ臭い部屋や乗用車の窓ガラスをそっと拭いてみると、茶色のヤニが付いてきます。

「せっかく新築した念願のマイホームを、タバコで汚さないで」と家族に言われ、自分が建てた家なのに冬の寒さの中、玄関で喫煙を続けたその家の主人が、ある時「何でこんなみじめな思いをせなあかんねん、アホくさっ」と一念発起して禁煙した例があります。

タバコを吸うと、周りのものにイヤなニオイと汚れを付け、そして何よりも自分と周りの人の健康を害します。良いことは、何ひとつないのです。だから今、タバコに手を出していない君たちは、タバコを吸っていないことに自信を持って下さい。その自信が、きっとあなたの人生にプラスになるはずですよ。